

## 第4章 高校生の学科と職業適性との関連

### 4-1 問題・目的

自分がどのような職業に向いているのか、つまり職業適性に関する疑問は、就業を控えた若年者にとって主要な疑問の一つである。とりわけ近年は、若年者に向けたキャリア教育の重要性から、自己理解を深めさせるための手がかりとして、適性検査が盛んに行われている状況にある。実際にリクルートマーケティングパートナーズ総研（2014）が、全国の全日制高校 4,836 校に行った調査によれば、調査対象校の内 64.8%が適性検査に取り組んでいたとし、実際にツールとして広く利用されている現状がうかがえる。

このように広く用いられている適性検査であるが、その位置づけは高校の属性により異なる。冒頭であげた調査の内訳では、大学や短期大学への進学率別実施率をみると、進学率が70%以上の高校で55.7%、進学率が40%未満の高校での実施率は76.1%と高く、また、高校タイプ別にみた実施率では、普通科が61.0%であるのに対し、総合学科が73.6%、専門高校が81.5%と、普通科に比べ実施率が高い。つまり、進学を希望する高校や普通科に比べ、就職という選択を選びやすい高校や学科においては、生徒がより就職を目前に控えているために、彼らの適性を把握することが重要となるものと思われる。

このような適性検査の中でも、能力特性を測定するための検査としてはGATBがある。同検査は紙筆検査11種、器具検査4種の下位検査15種で構成され、それらは9種の適性能として換算される。同検査は1952年の開発から幾度かの改訂を経ながら、中学・高等学校の職業指導・進路指導のための教材として広く用いられてきた。したがって、信頼性・妥当性が担保されている点、データの蓄積があるという点で有用なツールとなっている。

本書の第3章では、中学生と高校生のGATBのデータを用いて、得点からみた職業能力の特徴、83年データとの比較、年度による経年変化をみたが、先に述べたように高校生については、属性による適性の違いを考慮することが必要であると考えられるため、第4章では高校生のGATB得点を取り上げ、属性の関連からみた分析を行う。本章では、高校の①学科、②性別、③検査実施年度といった観点から高校生のGATB得点を検討することを目的とした。

### 4-2 方法

#### （1）対象としたデータ

1995年、2013年の手引改訂にならい、愛知県ならびに公益財団法人愛知県労働協会の協力を得て、直近の過去13年間（2001年4月から2014年3月まで）に集められたGATBのデータのうち、高校生のデータ、全120,668件を分析の対象とした。学年、学科、性別の内訳については「結果」において集計結果を示す。

## (2) 分析の観点

分析の観点について以下に列挙する。

### ①学科比較

適性能は仕事を遂行する上で必要とされる能力であるため、職業に対する興味類型を考慮し設定された職業領域と、当該領域に対応する適性職業群とを加味することで、ある領域における職業に必要な適性能は何かが分かるように編成されている。これら職業領域は、高校の学科で扱う学問領域にも対応するため、当該学科に属する生徒に特徴的な適性能の高さがみられるかどうかを検討することは意義があるものと思われる。本章では特に学科比較を主たる検討目的とする。

### ②性別比較

種々の知的能力について男女差があるかどうかについては古くから論議がある。特に、言語能力は男性より女性が優れ、視空間能力と数的能力については男性が女性に優るという説が多く、研究者により主張されてきた(東,1997)。これら知見を鑑み、性差について検討する。

### ③年度比較

2013年版の手引で報告された2001年度から2011年度までのデータ(以下、01-11年データとする)から、さらに追加された2001年度から2013年度までのデータ(以下、01-13年データとする)に関して、各下位検査の得点を算出し、徐々に減少もしくは増加などの一定の変化の傾向がみられるかを検討する。

## 4-3 結果

### (1) サンプル数

2001年度から2013年度にかけて、高校生について得られたデータは全体で120,668名であり、その属性については学年、性別、学科で示す。学年は1～4年生、性別は男女、学科は商業科、工業科、農林水産科、窯業科、総合・普通科の5つであった。学年に関しては2名、性別に関しては72名が無回答であったため、それらサンプルを除外した。また、本章では学科間の比較を行うが、窯業科についてはサンプルサイズが2,051名と少ないこと、また単一の学校から収集されたデータであることから分析対象から削除した。最終的に得られた全体サンプル118,543名の学年、性別、学科の内訳を図表4-1に示した。

図表 4-1 分析対象者の属性の内訳（人）

学年	性別	学科				学科計
		商業科	工業科	農林 水産科	総合・ 普通科	
1年生	男子	0 (0.0%)	6829 (96.6%)	837 (40.0%)	3354 (34.7%)	11020 (58.5%)
	女子	0 (0.0%)	241 (3.4%)	1253 (60.0%)	6320 (65.3%)	7814 (41.5%)
	合計	0 (0.0%)	7070 (100.0%)	2090 (100.0%)	9674 (100.0%)	18834 (100.0%)
2年生	男子	4290 (16.2%)	12400 (87.5%)	1947 (47.9%)	9253 (46.4%)	27890 (43.2%)
	女子	22160 (83.8%)	1771 (12.5%)	2121 (52.1%)	10668 (53.6%)	36720 (56.8%)
	合計	26450 (100.0%)	14171 (100.0%)	4068 (100.0%)	19921 (100.0%)	64610 (100.0%)
3年生	男子	1895 (16.4%)	2373 (97.7%)	117 (64.3%)	8894 (43.7%)	13279 (38.5%)
	女子	9627 (83.6%)	57 (2.3%)	65 (35.7%)	11463 (56.3%)	21212 (61.5%)
	合計	11522 (100.0%)	2430 (100.0%)	182 (100.0%)	20357 (100.0%)	34491 (100.0%)
4年生	男子	45 (51.1%)	123 (100.0%)	0 (0.0%)	249 (62.9%)	417 (68.6%)
	女子	43 (48.9%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	147 (37.1%)	191 (31.4%)
	合計	88 (100.0%)	123 (100.0%)	1 (100.0%)	396 (100.0%)	608 (100.0%)
学年計	男子	6230 (16.4%)	21725 (91.3%)	2901 (45.7%)	21750 (43.2%)	52606 (44.4%)
	女子	31830 (83.6%)	2069 (8.7%)	3440 (54.3%)	28598 (56.8%)	65937 (55.6%)
	合計	38060 (100.0%)	23794 (100.0%)	6341 (100.0%)	50348 (100.0%)	118543 (100.0%)
学科人数 ／総計		32.1%	20.1%	5.3%	42.5%	100.0%

※( )内は各学年での全体に対する各セルの割合(%)を示す。

検査得点の比較に先立ち、どの学科で GATB を多く実施しているかを検討するため、全体サンプルに占める学科人数の割合を算出した。その結果、商業科は 32.1%、工業科は 20.1%、農林水産科は 5.3%、総合・普通科は 42.5%となった。総合・普通科で実施率が最も高く、次いで商業科、工業科の順に多く実施をしていた。

器具検査については未実施の高校が大半であったため、サンプル数を別に示した（図表 4-2）。今回の調査において、器具検査を受けているとの回答を得られたのは、商業科で 2 名、工業科で 1,324 名、総合・普通科で 1,777 名だった。器具検査が実施されている学科は、実質、工業科と総合・普通科のみであることから、以降の分析では、器具検査についての得点の学科比較は行わないこととした。

図表 4-2 器具検査サンプル数

学年	性別	学科				学科計
		商業科	工業科	農林 水産科	総合・ 普通科	
1年生	男子	0 (0.0%)	672 (94.2%)	0 (0.0%)	214 (70.6%)	886 (87.2%)
	女子	0 (0.0%)	41 (5.8%)	0 (0.0%)	89 (29.4%)	130 (12.8%)
	合計	0 (0.0%)	713 (100.0%)	0 (0.0%)	303 (100.0%)	1016 (100.0%)
2年生	男子	0 (0.0%)	584 (97.0%)	0 (0.0%)	219 (72.0%)	803 (88.4%)
	女子	2 (100.0%)	18 (3.0%)	0 (0.0%)	85 (28.0%)	105 (11.6%)
	合計	2 (100.0%)	602 (100.0%)	0 (0.0%)	304 (100.0%)	908 (100.0%)
3年生	男子	0 (0.0%)	7 (77.8%)	0 (0.0%)	611 (56.5%)	618 (56.6%)
	女子	0 (0.0%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	471 (43.5%)	473 (43.4%)
	合計	0 (0.0%)	9 (100.0%)	0 (0.0%)	1082 (100.0%)	1091 (100.0%)
4年生	男子	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (65.9%)	58 (65.9%)
	女子	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30 (34.1%)	30 (34.1%)
	合計	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	88 (100.0%)	88 (100.0%)
学年計	2 (0.1%)	1324 (42.7%)	0 (0.0%)	1777 (57.3%)	3103 (100.0%)	

※( )内は各学年での全体に対する各セルの割合(%)を示す。

## (2) 学科と性別比較の結果

学科比較を行うにあたり、工業科の91.3%が男子、商業科の83.6%が女子で構成されている点を考慮すれば、性別の要因を無視した単純な学科比較はできない。そこで、学科・性別ごとの得点を算出することで、同一学科における男女の得点差、同性における学科の得点差を検討することとした。

まず、学科・性別ごとの下位検査得点の平均値と標準偏差を算出した(図表4-3)。

図表 4-3 学科・性別ごとの下位検査得点の平均値と標準偏差 (SD)

学科 性別 人数	商業科		工業科		農林水産科		総合・普通科	
	男子 (N=6230)	女子 (N=31830)	男子 (N=21725)	女子 (N=2069)	男子 (N=2901)	女子 (N=3440)	男子 (N=21750)	女子 (N=28598)
円打点 平均 SD	97.78 21.48	94.12 18.82	91.54 21.18	95.58 21.28	89.59 20.55	89.22 18.80	85.45 23.67	85.12 21.64
記号記入 平均 SD	100.60 20.09	102.09 18.62	93.12 19.59	101.31 21.02	92.30 19.39	96.55 18.81	89.58 21.91	93.23 20.99
形態照合 平均 SD	99.70 21.75	93.24 18.94	92.06 20.75	89.08 20.52	89.32 20.09	86.11 18.36	86.67 23.48	83.28 21.79
名詞比較 平均 SD	111.36 21.52	112.17 19.48	103.18 21.32	105.94 20.43	100.85 21.23	104.71 20.07	98.36 22.78	102.36 21.43
図柄照合 平均 SD	91.91 22.55	91.11 20.01	91.85 23.15	94.99 21.76	88.92 22.58	89.00 20.39	87.35 24.25	87.11 21.33
平面図判断 平均 SD	103.59 22.42	105.10 20.40	101.80 22.01	106.68 21.55	100.24 22.19	102.99 20.20	98.60 23.43	101.02 21.66
計算 平均 SD	92.76 24.45	95.01 22.23	87.56 24.66	91.68 24.09	88.03 25.90	90.98 21.75	87.43 26.92	90.25 23.86
語意 平均 SD	92.76 24.45	95.01 22.23	87.56 24.66	91.68 24.09	88.03 25.90	90.98 21.75	87.43 26.92	90.25 23.86
立体図判断 平均 SD	92.76 24.45	95.01 22.23	87.56 24.66	91.68 24.09	88.03 25.90	90.98 21.75	87.43 26.92	90.25 23.86
文章完成 平均 SD	92.76 24.45	95.01 22.23	87.56 24.66	91.68 24.09	88.03 25.90	90.98 21.75	87.43 26.92	90.25 23.86
算数応用 平均 SD	92.76 24.45	95.01 22.23	87.56 24.66	91.68 24.09	88.03 25.90	90.98 21.75	87.43 26.92	90.25 23.86

その結果、学科・性別による下位検査得点の違いが認められたため、学科・性別ごとの適性能得点の平均値と標準偏差を算出した（図表 4-4）。適性能得点について、同一学科における男女の得点差、同性における学科の得点差から検討する。

まず、同一学科における男女の得点差をみていく。いずれの学科でも女子で高かったのは言語 (V)、書記 (Q)、共応 (K)、形態 (P) であった。一方、いずれの学科でも男子で高かったのは数理 (N) であった。概して両者に大きな得点差がなかったのは、知的 (G) と空間 (S) であった。ただし、この二つの適性能については、商業科では女子に比して男子の得点が高く、工業科では男子に比して女子の得点が高かった。

次に、同性における学科の得点差をみていく。適性能によって多少の変動はあるものの、概して女子においては商業科と工業科の得点が同程度に高く、次いで農林水産科となり、総合・普通科が最も低いという傾向がみられた。男子においては商業科が最も高く、次いで工

業科、農林水産科と続き、総合・普通科が最も低いという傾向がみられた。

本結果から、商業科男女と工業科女子の能力の高さが伺えた。中でも、商業科男子と工業科女子については、両群とも学科内の性別を占める割合でいえば少数の側であるという点で共通している。同性が少ないことが明らかな学科に進学する、または在籍している生徒の特徴について、今後検討していくことも興味深い。

また、総合・普通科がいずれの適性能についても得点が低いことについては、このような検査を多く実施している高校での総合・普通科であることに留意する必要がある。つまり、進学ではなく就職が選択されやすい学校で得られたサンプルのため、進学を主に選択する学校での総合・普通科とは異なる結果が得られた可能性が考えられる。

図表 4-4 学科・性別ごとの適性能得点の平均値と標準偏差 (SD)

学科 性別 人数	商業科		工業科		農林水産科		総合・普通科	
	男子 (N=6230)	女子 (N=31830)	男子 (N=21725)	女子 (N=2069)	男子 (N=2901)	女子 (N=3440)	男子 (N=21750)	女子 (N=28598)
G 知的 平均 SD	97.78 21.48	94.12 18.82	91.54 21.18	95.58 21.28	89.59 20.55	89.22 18.80	85.45 23.67	85.12 21.64
V 言語 平均 SD	100.60 20.09	102.09 18.62	93.12 19.59	101.31 21.02	92.30 19.39	96.55 18.81	89.58 21.91	93.23 20.99
N 数理 平均 SD	99.70 21.75	93.24 18.94	92.06 20.75	89.08 20.52	89.32 20.09	86.11 18.36	86.67 23.48	83.28 21.79
Q 書記 平均 SD	111.36 21.52	112.17 19.48	103.18 21.32	105.94 20.43	100.85 21.23	104.71 20.07	98.36 22.78	102.36 21.43
S 空間 平均 SD	91.91 22.55	91.11 20.01	91.85 23.15	94.99 21.76	88.92 22.58	89.00 20.39	87.35 24.25	87.11 21.33
P 形態 平均 SD	103.59 22.42	105.10 20.40	101.80 22.01	106.68 21.55	100.24 22.19	102.99 20.20	98.60 23.43	101.02 21.66
K 共応 平均 SD	92.76 24.45	95.01 22.23	87.56 24.66	91.68 24.09	88.03 25.90	90.98 21.75	87.43 26.92	90.25 23.86

### (3) 年度比較の結果

以下では 01-13 年データを年度の観点から分析した。まず、年度別に高校生全体で学科をこみにした年度別、適性能の平均値と標準偏差を算出した。その際、4 年生の人数が他の学年に比して少なかったため、学年別の検討からは除外した。さらに、本章の主な検討目的である学科比較のため、学科別、年度別に適性能の平均値と標準偏差を算出した (図表 4-6)。さらにそれをグラフとしたものが図表 4-7~4-12 である。

#### ① 学科計、年度別の適性能得点 (mean) と標準偏差 (SD)

学科をこみにした高校生全体の各年度の適性能得点の平均値と標準偏差を図表 4-5 に示す。

図表 4-5 各年度における高校生の学科計の適性能得点平均値 (mean) と標準偏差 (SD)

	下位尺度	2001年度		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度	
		mean	SD	mean	SD										
		n=7,221		n=8,065		n=8,910		n=8,359		n=8,517		n=8,960		n=10,240	
学科計	G 知的	91.79	20.81	91.82	21.16	90.07	22.19	90.42	21.14	91.84	21.04	90.89	20.80	90.83	21.60
	V 言語	96.28	20.56	96.16	20.86	94.88	21.13	96.04	20.68	96.48	20.48	96.21	20.07	96.53	20.67
	N 数理	92.61	20.94	91.56	21.94	89.12	22.34	89.21	21.42	90.46	21.31	89.41	21.11	89.14	21.52
	Q 書記	105.83	21.27	105.27	21.38	104.67	22.05	105.35	21.49	105.59	21.33	104.40	21.45	105.09	21.93
	S 空間	93.26	21.67	93.26	21.67	92.18	22.24	91.95	21.55	92.24	21.98	90.44	21.71	89.51	21.99
	P 形態	104.44	21.96	104.45	21.78	104.26	21.84	104.02	21.68	103.84	21.70	102.48	21.74	102.02	21.90
	K 共応	90.79	24.65	92.05	27.91	89.31	25.15	88.45	24.09	89.41	23.13	89.44	23.28	90.80	24.08

	下位尺度	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		年度合計	
		mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
		n=9,149		n=10,616		n=9,781		n=9,340		n=9,873		n=11,563		n=120,594	
学科計	G 知的	88.98	21.77	88.23	22.18	88.48	21.69	89.48	21.21	88.54	21.56	87.97	21.49	89.82	21.51
	V 言語	95.35	20.95	94.53	21.19	95.00	20.68	95.63	20.11	94.72	20.69	94.42	20.52	95.50	20.68
	N 数理	87.19	21.12	86.48	21.79	87.69	21.29	89.38	20.99	89.70	21.69	89.96	21.56	89.27	21.53
	Q 書記	103.62	22.08	104.10	22.53	104.88	21.60	105.62	21.37	105.14	21.97	105.02	21.48	104.94	21.72
	S 空間	88.04	22.38	87.82	22.16	87.24	22.05	88.00	21.88	87.52	21.94	86.35	22.04	89.59	22.08
	P 形態	100.96	22.01	100.24	22.08	100.71	21.75	100.69	21.31	100.26	21.91	100.70	21.70	102.08	21.86
	K 共応	91.48	24.98	91.77	24.24	91.63	24.35	90.44	22.85	90.47	23.87	90.64	24.07	90.54	24.36

※図表 4-5 は 2013 年版の手引に掲載されている数値を参照していること、様々な学科をこみにした高校生全体の適性能得点の傾向をみるということから、窯業科のデータも含めたままにしている。

② 学科別、年度別の適性能得点 (mean) と標準偏差 (SD)

学科別に各年度の適性能得点の平均値と標準偏差を算出した結果を図表 4-6 に示す。

図表 4-6 各年度における高校生の学科別の適性能得点平均値 (mean) と標準偏差 (SD)

	下位尺度	2001年度		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度	
		mean	SD												
		n=2,832		n=3,299		n=2,910		n=2,865		n=2,757		n=2,500		n=3,194	
商業科	G 知的	98.11	18.74	97.72	18.55	96.28	18.87	95.81	18.61	95.01	18.95	93.94	18.27	94.25	19.50
	V 言語	103.52	18.57	102.63	18.42	102.58	18.90	102.59	18.60	102.00	19.10	101.75	18.74	101.46	19.10
	N 数理	98.83	18.53	99.01	18.83	96.68	18.65	94.85	19.03	94.71	19.55	91.71	18.94	91.31	19.58
	Q 書記	113.24	19.31	112.96	19.13	112.48	20.09	112.31	19.03	111.32	19.96	111.15	20.13	111.45	19.73
	S 空間	97.19	20.21	96.10	20.14	94.75	20.30	93.80	19.75	91.73	20.05	90.78	19.75	90.61	20.33
	P 形態	108.85	20.62	108.12	20.31	107.32	20.16	107.01	20.37	105.27	20.83	105.18	20.43	104.13	20.77
	K 共応	98.15	22.70	99.04	24.77	94.03	22.28	92.74	22.58	92.95	22.38	95.40	21.80	93.84	22.14

	下位尺度	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		年度合計	
		mean	SD	mean	SD										
		n=2,330		n=3,159		n=3,267		n=2,655		n=3,125		n=3,167		n=38,060	
商業科	G 知的	95.18	19.16	94.99	19.99	93.96	19.95	92.83	18.92	91.51	19.97	91.86	19.99	94.72	19.33
	V 言語	102.86	18.46	101.99	19.09	101.46	19.18	100.97	18.44	100.20	19.21	100.39	19.04	101.85	18.87
	N 数理	93.72	18.45	93.30	19.94	92.89	19.88	92.78	19.09	92.70	20.68	93.11	20.70	94.30	19.58
	Q 書記	112.19	19.89	112.56	20.24	112.38	20.18	111.97	19.88	111.16	20.41	111.21	19.65	112.04	19.83
	S 空間	89.63	19.91	89.85	20.70	89.02	20.60	88.36	19.95	87.73	20.06	86.61	20.55	91.24	20.45
	P 形態	104.21	20.49	103.82	20.69	103.64	20.85	102.62	20.31	100.91	21.06	102.33	21.07	104.86	20.75
	K 共応	94.94	21.91	96.72	22.30	94.45	22.07	93.68	22.13	91.86	22.56	92.34	22.59	94.64	22.63

	下位尺度	2001年度		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度	
		mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
		n=245		n=678		n=1,143		n=1,127		n=1,595		n=1,827		n=1,841	
工業科	G 知的	89.39	21.12	91.01	18.79	94.74	21.42	91.79	20.84	94.07	20.40	93.75	19.70	94.57	21.06
	V 言語	90.23	19.10	90.95	18.27	95.13	19.79	92.81	19.38	94.75	19.05	95.46	18.83	96.25	20.07
	N 数理	93.03	20.08	93.47	19.49	93.76	20.33	91.40	19.53	93.33	19.79	92.77	19.48	93.85	20.36
	Q 書記	99.56	21.30	102.49	19.22	105.39	21.07	103.45	20.78	104.22	20.50	103.28	20.22	104.96	21.99
	S 空間	92.91	25.44	95.61	22.15	99.59	22.96	94.51	22.80	95.87	21.97	93.41	23.10	92.80	22.43
	P 形態	104.15	21.03	104.06	22.27	108.88	23.23	103.72	21.91	105.13	21.48	102.31	21.97	103.40	22.13
	K 共応	78.81	25.10	82.49	24.08	94.46	30.14	81.98	23.21	85.38	22.92	86.49	22.79	88.33	26.70

	下位尺度	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		年度合計	
		mean	SD	mean	SD										
		n=2,506		n=3,010		n=1,835		n=2,459		n=2,886		n=2,642		n=23,794	
工業科	G 知的	90.46	21.56	89.45	22.30	90.48	21.08	92.74	21.21	90.38	22.23	92.69	20.27	91.90	21.22
	V 言語	93.15	20.47	92.74	21.13	93.05	19.44	95.08	19.22	92.15	20.49	94.57	19.22	93.84	19.86
	N 数理	89.53	20.65	87.04	21.66	90.30	20.31	92.78	20.67	92.31	22.42	94.75	19.82	91.80	20.75
	Q 書記	101.83	22.04	101.41	21.77	102.57	20.97	105.05	20.82	102.61	22.03	105.40	20.65	103.41	21.26
	S 空間	91.05	23.31	90.68	22.87	90.18	23.02	91.11	22.96	90.53	23.25	90.03	22.98	92.13	23.05
	P 形態	101.11	22.21	100.56	22.06	100.68	21.52	102.03	21.28	100.41	22.23	101.63	21.58	102.23	22.02
	K 共応	87.98	25.26	88.92	25.37	87.80	22.90	88.33	22.83	88.62	24.49	89.79	23.73	87.91	24.63

	下位尺度	2001年度		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度	
		mean	SD												
		n=158		n=159		n=157		n=160		n=156		n=834		n=764	
農林水産科	G 知的	96.64	16.11	97.23	16.25	97.70	17.60	94.83	18.56	97.50	18.34	87.93	19.99	89.93	21.50
	V 言語	100.60	18.71	98.53	17.70	100.29	17.96	99.14	18.63	100.40	16.80	92.92	19.36	95.81	19.83
	N 数理	94.71	18.37	97.58	17.92	96.75	18.49	93.35	17.34	94.81	17.54	84.89	20.40	86.55	20.06
	Q 書記	106.30	21.08	105.95	19.08	109.28	20.67	106.11	20.65	104.99	18.91	99.88	20.38	102.56	22.19
	S 空間	93.51	19.08	94.79	18.66	93.73	18.43	90.76	19.99	93.92	18.81	88.74	21.86	90.29	23.29
	P 形態	106.10	20.36	105.33	18.40	106.66	20.06	101.93	19.58	106.14	19.38	101.03	21.26	103.38	23.34
	K 共応	90.61	24.91	84.89	20.17	90.90	24.21	77.65	21.12	89.54	20.26	84.87	22.79	92.06	26.33

	下位尺度	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		年度合計	
		mean	SD	mean	SD										
		n=776		n=822		n=583		n=592		n=592		n=588		n=6,341	
農林水産科	G 知的	90.58	20.71	89.06	20.07	87.65	18.61	86.99	18.39	86.50	18.96	86.79	17.48	89.39	19.62
	V 言語	94.91	20.12	95.36	19.37	93.16	19.31	92.42	18.27	92.46	18.15	92.80	18.70	94.60	19.20
	N 数理	85.88	19.41	86.12	19.23	86.59	19.32	87.44	18.12	87.27	17.62	87.90	17.88	87.58	19.24
	Q 書記	102.62	21.13	103.27	21.83	103.38	19.50	103.29	20.64	101.33	19.26	103.81	19.55	102.95	20.69
	S 空間	90.71	22.28	88.13	21.02	87.35	21.50	88.20	20.16	85.09	21.60	86.82	20.51	88.97	21.42
	P 形態	102.62	21.17	100.40	21.06	102.00	21.38	99.92	20.61	98.54	20.34	101.37	20.79	101.73	21.18
	K 共応	91.38	23.92	90.79	24.16	89.61	24.82	89.38	21.02	90.92	23.34	92.24	23.14	89.63	23.78

	下位尺度	2001年度		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度	
		mean	SD												
		n=3,986		n=3,710		n=4,498		n=3,999		n=3,797		n=3,650		n=4,441	
総合・普通科	G 知的	87.25	21.15	86.51	22.62	84.64	23.28	86.16	22.12	88.71	22.36	88.36	22.65	86.97	22.58
	V 言語	91.33	20.49	91.22	21.90	89.63	21.48	92.28	21.42	93.25	21.41	93.75	20.99	93.22	21.45
	N 数理	88.08	21.55	84.74	22.94	82.99	23.46	84.79	22.74	86.62	22.42	87.61	22.90	86.08	22.98
	Q 書記	100.93	21.08	98.93	21.56	99.29	22.11	100.95	22.23	102.31	21.93	101.63	22.08	101.01	22.30
	S 空間	90.47	22.09	90.14	22.66	88.61	22.62	89.99	22.20	91.27	23.32	89.38	22.08	87.22	22.49
	P 形態	101.26	22.46	101.26	22.67	101.04	22.16	102.11	22.35	102.45	22.39	101.30	22.48	99.71	22.13
	K 共応	86.30	24.59	88.42	30.37	85.41	25.00	87.56	25.01	88.53	23.56	88.17	23.90	89.42	23.63

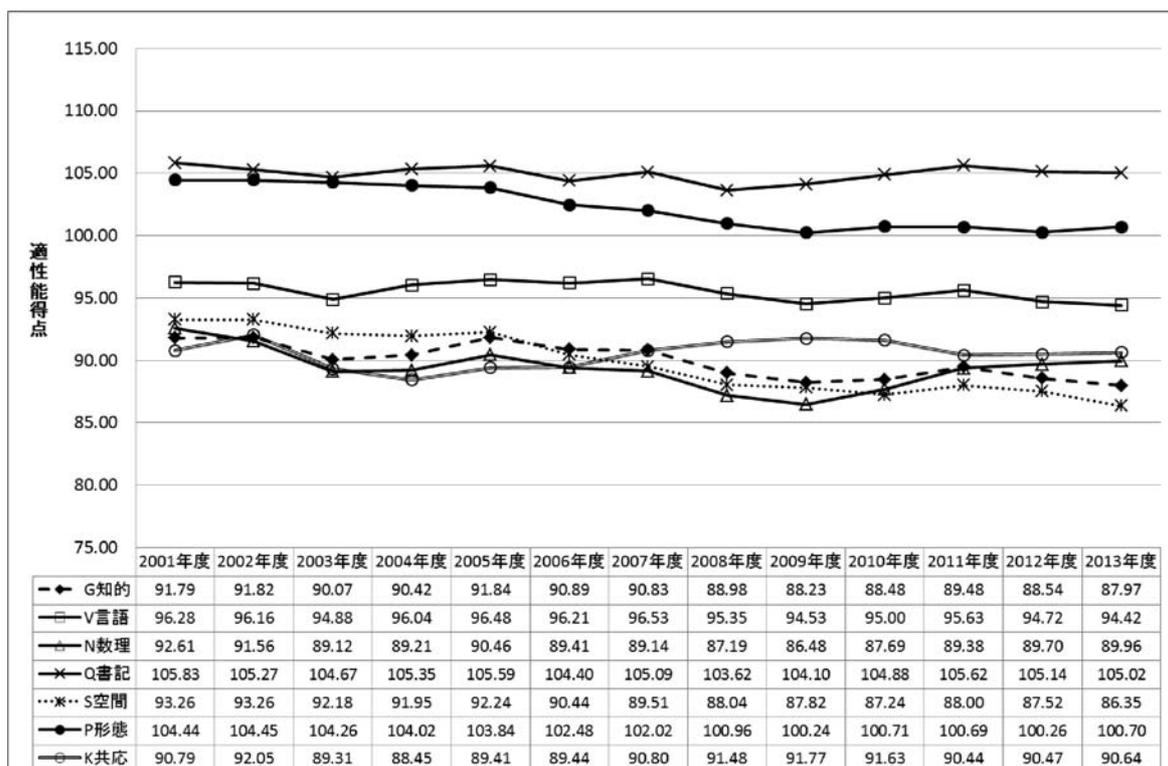
	下位尺度	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		年度合計	
		mean	SD	mean	SD										
		n=3,375		n=3,449		n=3,917		n=3,456		n=3,100		n=4,970		n=50,348	
総合・普通科	G 知的	83.25	22.56	80.77	22.30	83.09	22.59	85.05	22.37	84.19	22.35	83.14	22.47	85.26	22.54
	V 言語	91.85	21.89	89.16	21.62	90.89	21.38	92.49	21.42	91.95	21.74	90.84	21.50	91.66	21.47
	N 数理	81.62	21.99	79.99	22.21	82.47	21.98	84.97	22.21	85.00	21.96	85.78	22.58	84.74	22.60
	Q 書記	99.42	22.26	99.04	23.21	100.01	21.59	101.64	21.89	102.07	22.57	101.13	22.34	100.64	22.11
	S 空間	84.11	22.74	83.54	22.43	84.26	22.60	85.36	22.37	84.79	21.99	84.04	22.39	87.22	22.64
	P 形態	98.23	22.75	96.66	23.10	98.12	22.33	98.29	21.89	99.53	22.63	99.07	22.26	99.98	22.47
	K 共応	92.19	26.70	90.52	24.24	91.72	26.46	89.68	23.45	90.81	24.62	89.94	25.33	89.03	25.27

各年度で若干の得点の変動はあるが、学科間で得点が常に高めの適性能と低めの適性能はだいたい一定となっている。そこで、例えば 2013 年度について、学科別に適性能得点の傾向をみると、商業科では、書記 (Q) が他よりも飛び抜けて高く 110 以上となった。続いて形態 (P)、言語 (V) が 100~105 程度、数理 (N)、共応 (K)、知的 (G) が 90 程度、空間 (S) が最も低く 87 程度となった。全体の水準は商業科が学科の中で一番高めである。工業科については、書記 (Q) が最も高く 105 程度、形態 (P) が 100 程度であった。その次が言語 (V) と数理 (N) で 95 程度、その後が知的 (G)、空間 (S) となり、最も低かったのは共応 (K) で 90 程度であった。農林水産科では、最も高いのは書記 (Q)、次が形態 (P) で、これら 2 つは 100 以上となった。次が言語 (V) と共応 (K) で 90 よりやや高めであった。数理 (N)、知的 (G)、空間 (S) は 90 弱であった。総合・普通科では、書記 (Q) が最も高く、形態 (P) が次でこれらはおよそ平均的な水準の 100 程度であった。その次に言語 (V) と共応 (K) が 90 程度で、数理 (N)、空間 (S)、知的 (G) が 85 前後となっていた。このように学科によって得点の水準は異なるが、上位 2 つは書記 (Q) と形態 (P) である点は共通していた。

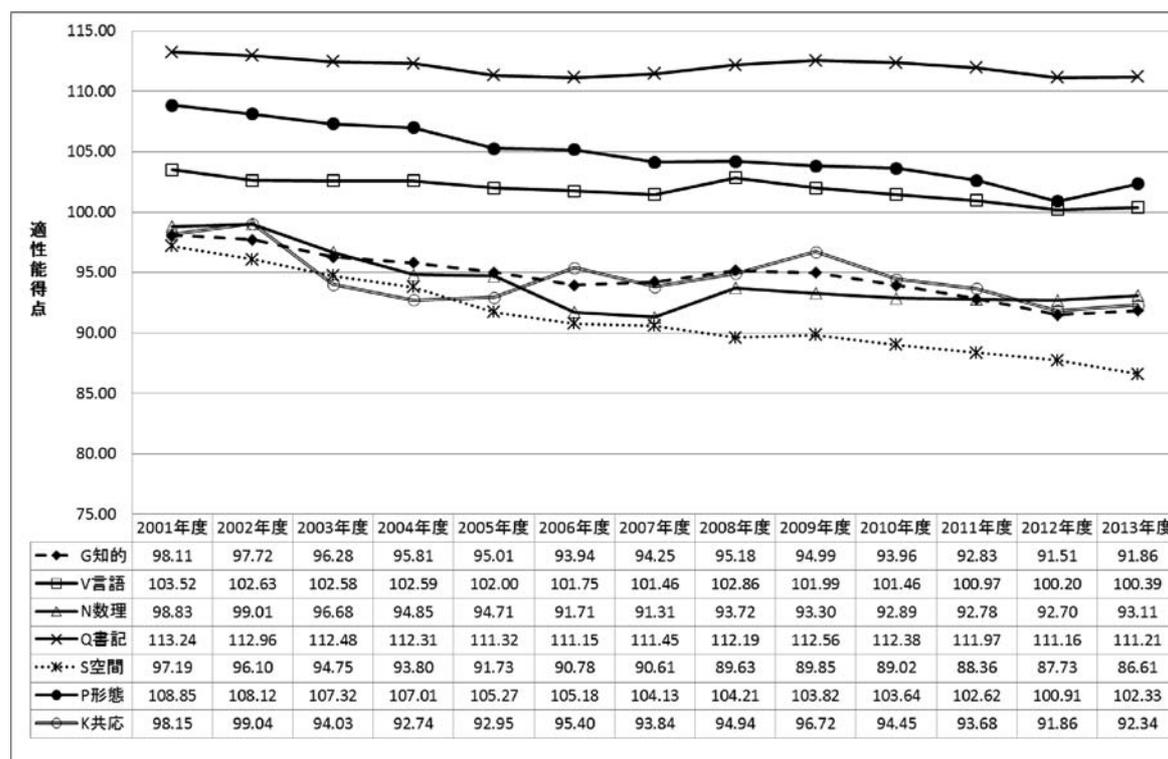
### ③全体 (学科計) および学科別の適性能得点の年度による推移

学科と学年をこみにして高校生全体として算出した適性能得点の平均値の年度による推移を図表 4-7 に示す。また、学科別の適性能得点の平均値の年度による推移を図表 4-8~図表 4-11 に示す。

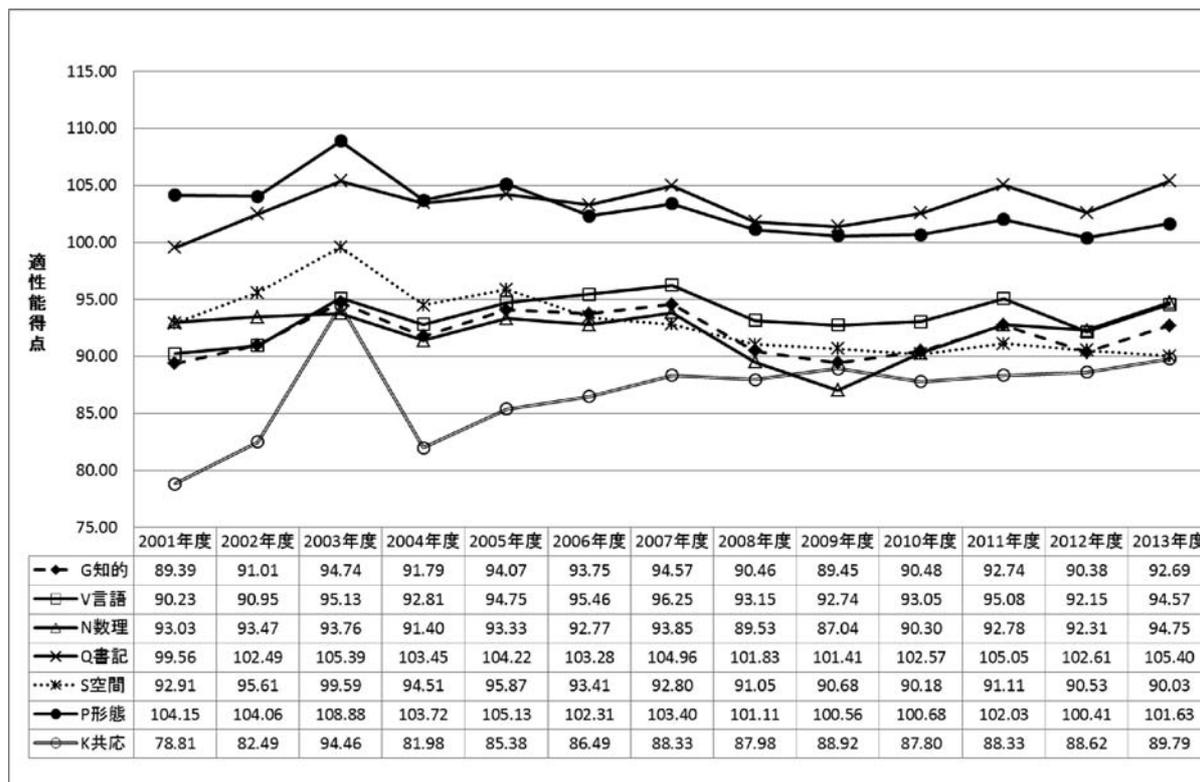
図表 4-7 全体（学科計）における適性能得点の年次推移



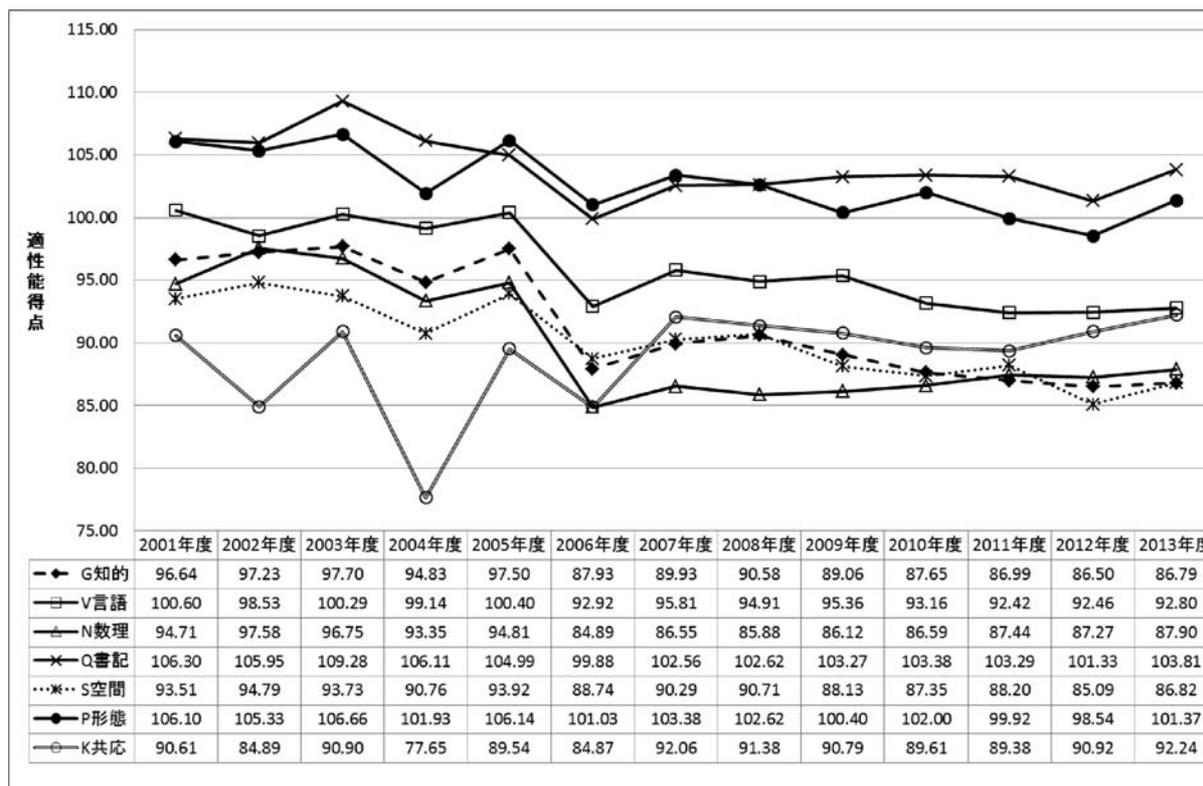
図表 4-8 商業科における適性能得点の年次推移



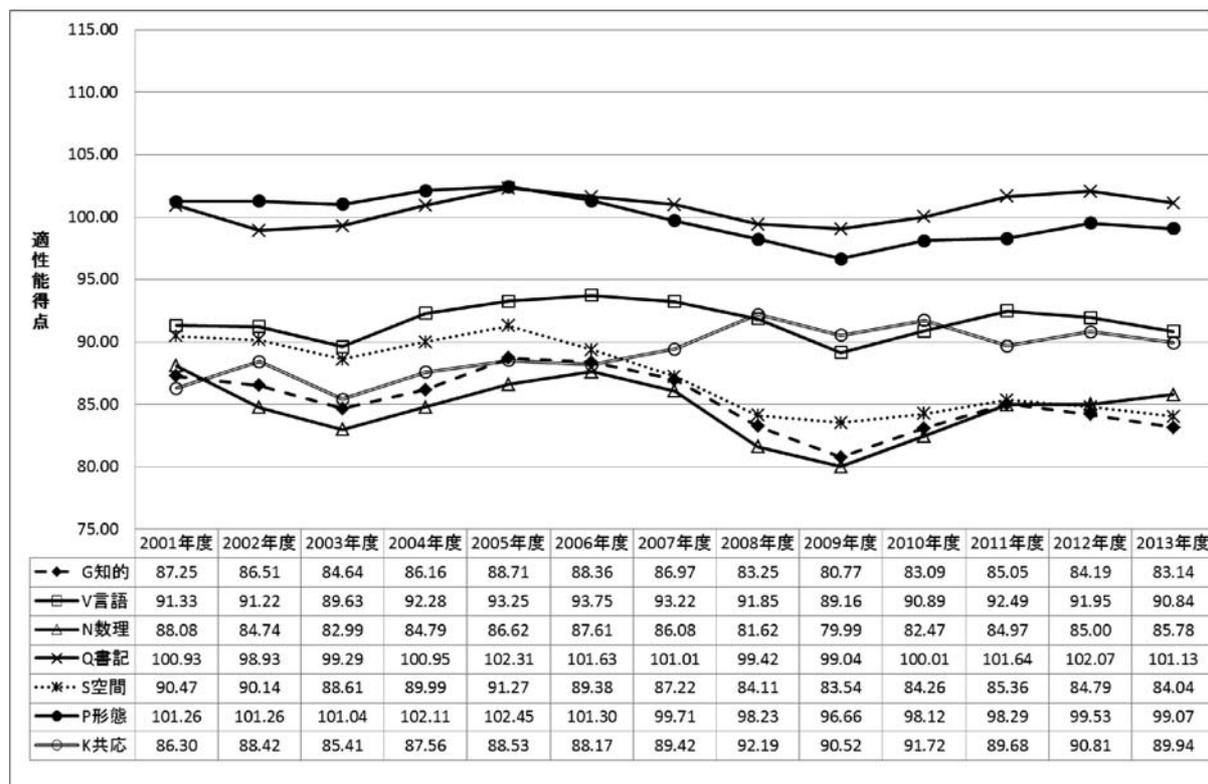
図表 4-9 工業科における適性能得点の年次推移



図表 4-10 農林水産科における適性能得点の年次推移



図表 4-11 総合・普通科における適性能得点の年次推移



#### 4-4 まとめ

2001年度から2013年度の得点の推移をみると、多少の増減はあるものの、おおむね横ばいの傾向を示したのは書記(Q)、言語(V)であった。数理(N)と知的(G)は2009年度にかけて得点が最も低くなったが2010年度以降はやや上昇傾向に転じている。共応(K)は2001年度から2006年度にかけての得点の水準よりも2007年度以降の方が高めの傾向となっている。形態(P)は2006年度までは100以上で横ばいであったが、2007年度以降は100未満の水準で推移している。また、空間(S)は2006年度までは90前後であったのが、2007年度以降は85前後で推移していることから、形態(P)と空間(S)は2007年度以降はそれまでと比べて得点が低めの水準になっているといえよう。

しかし学科ごとにみれば、その傾向はわずかに異なる。商業科では全ての適性能得点が高学段に比して相対的に高いが、いずれの得点もゆるやかな下降傾向にある。工業科では、全適性能が2003年度に著しく上昇してから2004年度に下降して以後、共応(K)は上昇傾向、形態(P)と空間(S)は下降傾向、書記(Q)、知的(G)、数理(N)は一度下降傾向にあったが近年上昇傾向にあり、言語(V)は横ばいである。農林水産科では、2003年度から2006年度にかけて全適性能得点が低下傾向にあり、特に以前よりも著しく水準が下がった2006年度から近年少しずつ上昇傾向にあるのは書記(Q)、共応(K)、数理(N)、下降傾向にあ

るのは空間 (S)、知的 (G)、言語 (V)、横ばいは形態 (P) である。総合・普通科では、2003 年度から 2006 年度にかけて全適性能得点が上昇傾向であったが、2006 年度から 2009 年度にかけては、共応 (K) を除いた全ての得点が下降傾向にあり、2009 年度以降は以前の水準へと回復傾向にあった。特に以前の水準から上昇しているのは共応 (K)、下降しているのは空間 (S) であった。

これらの経年変化をまとめれば、全学科に共通して下降傾向がみられたのは空間判断力 (S) であった。商業科のように、全適性能が以前の水準より低くなり、各適性能のばらつきも大きくなる学科がある一方で、工業科のように、学科内で相対的に高い水準にある適性能 (たとえば形態 (P)) がゆるやかな下降傾向、低い水準にある適性能 (たとえば共応 (K)) が上昇傾向となることで、各適性能のばらつきが収束される傾向にある学科がみられた。

このような変化の傾向がみられた原因を今回のデータで特定することはできないが、今後も学科の違いなどをふまえた上で、経年でのデータ検討をする必要があると思われる。

#### 参考文献

東 清和 1997 ジェンダー心理学の研究動向 教育心理学年報, 36, 156-164.

厚生労働省職業安定局 2013 厚生労働省編一般職業適性検査手引 進路指導・職業指導用  
雇用問題研究会

リクルートマーケティングパートナーズ総研 2014 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査